

サーキット・ライダー 2004 年 10 月号

教会を支え続ける無名の人々

こういうわけで、わたしたちもまた、このようにおびたしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか、信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。
ヘブライ人への手紙 12 : 1 - 2.

先月は 9・11 の 3 回忌、12 日の教会 95 周年及びメモリアル・ガーデンの献庭式と続き、その後も 10 月 3 日予定している教会年次総会の準備でいつに無く忙しい月となりました。しかしながら 95 周年の礼拝、祝会は喜びと共に深く信仰に生きた先人達のことを思った時でした。キリスト教・教会史は 1 世紀の初代教会形成以降、パウロを始め多くの著名な神学者、聖者を輩出しました。その後も今日に至るまで、歴史上に名を刻んだ多くの信仰者、指導者を生み出しています。彼らの業績は勿論、他の誰にもまねすることはできません。しかしそういった偉大な神学者、指導者もさることながら、2000 年このかた教会を守ってきたのは実は多くの無名の人々でした。日本でもアメリカでも教会を訪問する度にそういった教会を支える心優しい人々に出会いました。パークリッジ合同メソジスト教会にも幾人もそのような方がいますが、中でも故マリオン・ブリスコー婦人 (Marion L. Briscoe, 1900 生まれ、1994 没) はその代表と言えます。今回、95 周年の記念日に合わせマリオン・ブリスコーの生涯を思い出録風に記した本、A Walk with God: The Life of Marion L. Briscoe, 1900-1994. が現在モンタナに住んでいる元教会員 Catherine Bielitz 氏によって出版され、当日礼拝に来られた方、また希望者に配布されました。

マリオン・ブリスコーさんは 1909 年、教会創立に関わった十六家族の一家族、ブリスコー家の一人娘で教会が誕生する 2 年前 1907 年にニューアークからパークリッジに移ってきて、メソジスト教会の会員だった親と共に教会の創立に立ち会い、その生涯を教会に捧げました。本に創立当事の様子が書かれていますが、まだ自動車が一般的には持てない時代、隣町のメソジスト教会に通うため、なかなか来ない列車 (現在は月～金のみ、しかもニューヨーク通勤用の単線。当時は日曜日も上下運行していた。) を待ったり、乗り過ごした時など、礼拝用に正装していた為 1 時間以上かけて歩き礼拝に出たことなどが記され、子供心に「自分の町に教会が欲しい」と願ったことが書かれています。やがてその願い、祈りが神に届き、教会が作られます。若きマリオンはまだ女性の職場進出がほとんど困難な時代、女性が自立できる道として学校教師を選びます。公立中学、高校で英語、ラテン語、文学を教えつつ、教会では教会学校で子供のクラス、大人のクラスを教え、牧師の補佐として聖餐式や諸々の式の手伝いをしました。一箇所だけ短く、若いマリオンが恋愛、結婚を考えたことが書かれていますが、マリオンは生涯を独身で通し教育と伝道に身を捧げました。

95 周年礼拝が終わった後も連日、本の注文や「昔マリオンから教わった。」或いは「さんざんお世話になった。」という手紙や電話がきます。幾人かの方は直接話を聞く機会がありました。一人の婦人はご主人に先立たれ子供たちも独立し独り暮らしだったが「毎週のようにマリオンが立ち寄ってくれた。」と感謝していました。また別な婦人は「風邪をひいて寝込んだ時など、マリオンはいつもスープや食事を作って持ってきてくれたのよ。」と涙声で話してくれました。他にも、かつて教え子だった男性は「マリオンは厳しい先生だったけど、いつも私たち生徒を愛し、私たちのことを思っていてくれた。今になると余計彼女の優しさ、指導がありがたく思える。」との手紙を下さいました。

牧師とか社会福祉士のように、訪問したり、困っている人に手をかけたり、若い人を指導したりするのを生業としている人のみでなく信徒同士でもこのように訪問したり、仕えたり助け合ったりできるんだなあ・・・と思いましたし、本来、主にある交わりとはこういうものだと思再認識しました。マリオンは最後の最後までイエスを愛し、教会に仕えました。亡くなる直前も彼女は「自分の家、財産の半分を教会に寄付し残りを親戚の子供の教育に」と遺言を残しました。その遺産で教会がどれほど助けられたことでしょう。マリオンはパークリッジの教会や教え子達には忘れがたい人ですが世間的には全く無名です。しかしマリオンのような信仰の先人が教会を守り、次の世代へと託してきたからこそ今日に至るまで教会があるということを、私たちは肝に銘じ、自分達もイエスを見上げ、信仰の先人に恥ずかしくないように生きなければならないのではと思わずにはいられません。

吉松 純

***礼拝：午後4時。Jr.教会（教会学校）：午後4時時、礼拝に出席後、分級に進みます。**

***祈りたい方の為に礼拝堂を午後3時30分より開放しています。どうぞご利用ください。**

***聖日予定：**

10月 3日：自由祈祷会、Jr.教会、礼拝、聖餐式。 午後7時30分より、パークリッジ合同メソジスト教会の年次総会。

10日：自由祈祷会、Jr.教会、礼拝、司会、荒美俊三兄、

17日：午前10時、英語礼拝にて荒美俊三兄、松尾孝恵姉ご奉仕。午後1時、クロップ・ウオーク。自由祈祷会、Jr.教会、礼拝（いつも通り午後4時からです。）

24日：自由祈祷会、Jr.教会、礼拝、司会：荒美和子姉

31日：自由祈祷会、Jr.教会、礼拝、聖餐式（夏時間が終わり、冬時間になります。時計を1時間遅くしましょう。）

***集会、行事予定と報告**

11日（月）午後12時より、靱井梅子牧師をお迎えしての持ち寄り昼食会と特別集会。荒美俊三兄、和子姉宅。同封の案内をご覧ください。

17日（日）午前10時、英語礼拝にて荒美俊三兄ハーモニカによる讃美、松尾孝恵姉ユーリズミー・スピリチュアル・ダンスでの御奉仕。

17日（日）午後1時より、クロップ・ウオーク（寄付金スポンサーを募り6マイル歩きます。歩きとおしたら、寄付を頂き、困っている方にクロップ・ウオーク基金を通してさしあげます。）改革派教会よりスタート。参加希望の方、寄付を下さる方は吉松牧師までご連絡下さい。

22日（金）午後7時30分より、聖書研究会、日本語オフィス。 ***水から変更になりました。**

29日（金）午前10時30分、聖書の学び。牧師館にて。

30日（土）午後3時、LD(学習障害)の子供を持つ保護者また一般の方の為にセミナーがウエストチェスターのニューヨーク日本語教会であります。吉松牧師もパネル・ディスカッションで参加します。詳細は同封の案内をご覧ください。

***フォート・リーの集会は準備中で、今月もお休みとなります。**

*本文で書きましたマリオン・ブリスコー氏の思い出、**A Walk with God**は希望される方には、送料、梱包代として5ドル（アメリカ国内値段。日本への送料は若干上がります。）でお送りしています。チェックの宛名をPRUMCとし教会にお送り下さい。

***御協力お願い致します。**

*ハーベスト・タイム放映の為、献金、お祈りのご協力をお願いいたします。

*使用済み切手を集めています。ご協力下さい。消印のついた切手の周り1センチくらいの余白を残して切とって下さい。切手は日本キリスト教海外医療協力会（J O C S）に送ります。J O C Sは切手を換金し得られた収益金で海外に医療関係者を送ると共に医療関係者の育成をしています。

*H O P E（The Heart of Pediatric Electrophysiology）というボランティア団体にもご協力下さい。

Electrophysiology という特有の心臓病を患う子供を救う為、寄付金を募り患者や家族に送ったり、病院などの情報交換をしています。募金を下さる方はあて先をH O P Eとしてください。

*昨年よりケニアの恵まれない子供達やエイズの患者さん為に特別献金をしています。ご協力下さい。

連絡先：英語オフィス（201）391-5499 日本語及びファックス（201）505-0347 ホ

ームページ：<http://umc-japan.org> 吉松牧師宅（201）391-2208 pastor@umc-japan.org

教会学校担当：松尾孝恵姉（201）802-1769 takae723@hotmail.com